

展覧会への入口講座 Vol.19 東京ステーションギャラリー × 日比谷図書文化館  
**川端康成と美術 コレクションを手がかりに**



ロダン《女の手》を見る川端康成 撮影・林忠彦©林忠彦作品研究室・代表林義勝

展覧会を手掛けた方を講師にお迎えし、今までとは違った1歩踏み込んだ展覧会の楽しみ方をお届けする「展覧会への入口講座」。今回は、4月23日（土）から東京ステーションギャラリーで開催される「川端康成コレクション 伝統とモダニズム」展の関連講座を行います。

川端康成は美術品収集家としても知られ、そのコレクションは、縄文時代の土偶から、近世、近代の絵画・彫刻・工芸・書、さらには現代アートに至るまで、非常に幅広い領域にわたっています。川端の作品には美術品がしばしば登場しますが、川端は美術に対して、どのような姿勢で対峙していたのでしょうか。またそれは、美術コレクションとどんな関連があるのでしょうか。川端康成と美術について、実際の作品画像を紹介しながら、考えてみます。

**講師** 富田 章（とみた あきら）

1958年生。慶應義塾大学、成城大学大学院卒。東京ステーションギャラリー館長。専門は、フランス、ベルギー、日本の近代美術史。「シャガール—愛の旅人展」「ロートレック展」「始発電車を待ちながら展」などを企画。著書に『偽装された自画像』（祥伝社）、訳書に『クリムト』『ゴーガン』（西村書店）、などがある

**開催概要**

- 日時：2016年5月9日（月）19:00～20:30（18:30 開場）
- 会場：日比谷図書文化館 4階 スタジオプラス（小ホール）
- 定員：60名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1,000円（千代田区民500円 ※住所が確認できるものをお持ちください。）
- 申込方法：来館（1階受付）、電話（03-3502-3340）、Eメール（college@hibiyal.jp）いずれかにて  
① 講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。